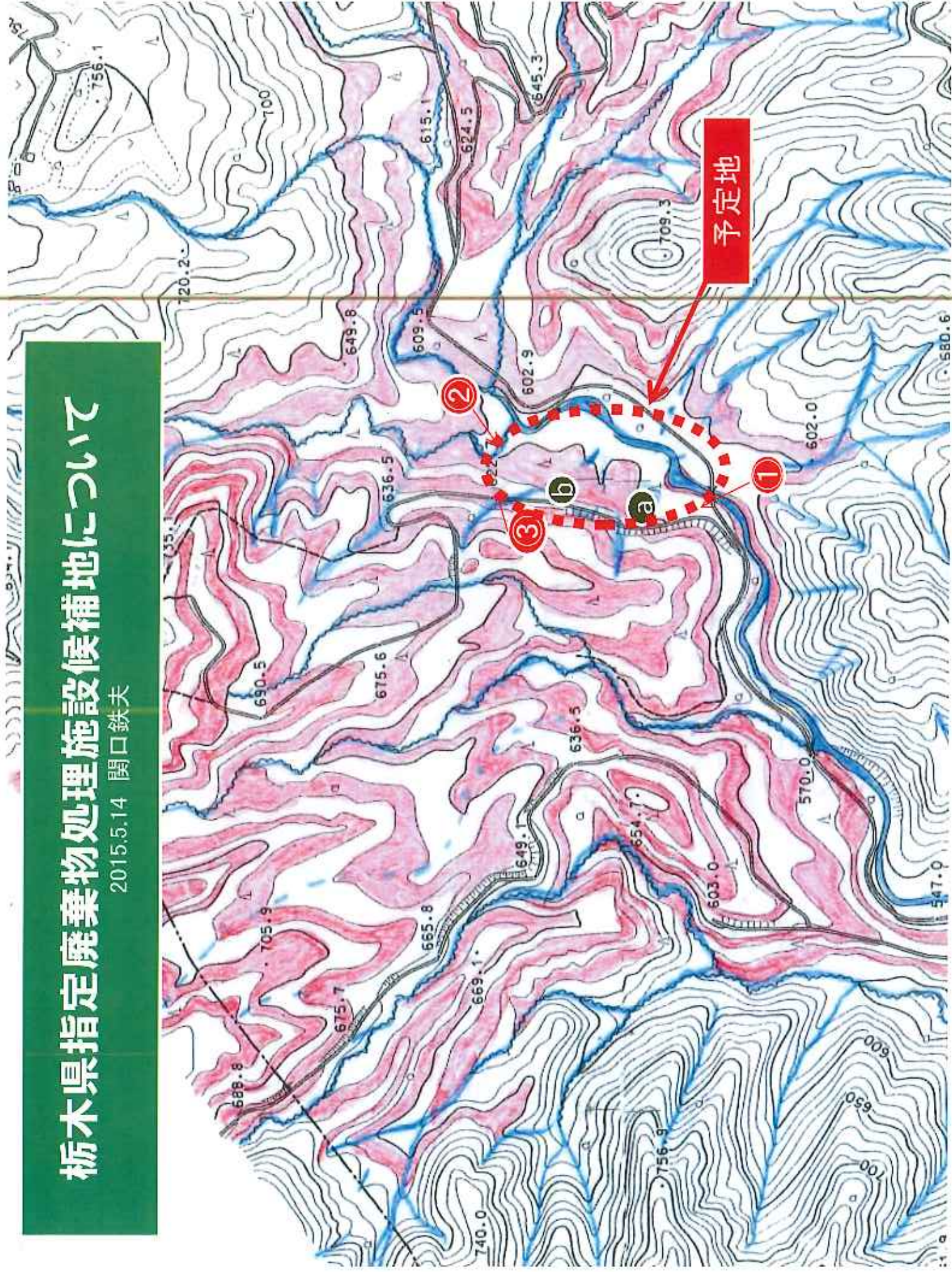
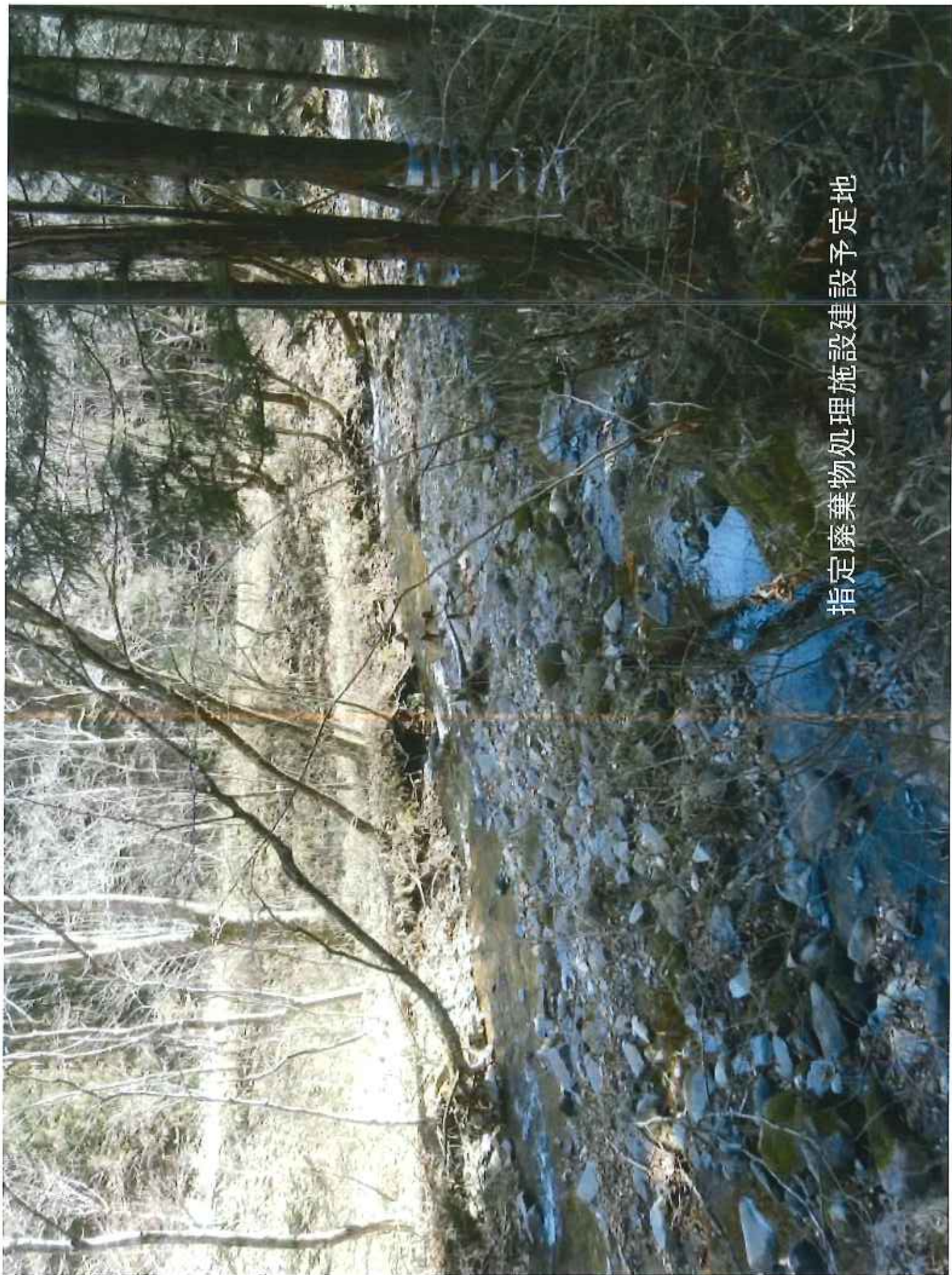


# 栃木県指定廃棄物処理施設候補地について

2015.5.14 関口鉄夫







指定廃棄物処理施設建設予定地



予定地内の湧水





# 栃木県における計画処分量及び施設設置に必要な面積

別添2

## 1. 計画最終処分量

計画最終処分量は、現在の廃棄物保管テータ及び最近の県内における8,000Bq/kg超えの廃棄物の発生状況を勘案して設定すると12,150トンとなる。(単位:トン)

種別	保管量 H26.3末時点	保管量テータ より必要処分 量を算出	計画 最終処分量
一般廃棄物焼却灰	2,447	2,692※1	2,700
農林業系副産物焼却灰	8,375※2	3,618※3	3,700
下水汚泥(灰・スラグ)	2,200	2,200	2,200
浄水発生土	728	728	750
その他	8	8	1,000※4
仮設炉解体材			1,800※5
合計	13,757	9,246	<u>12,150</u>

※1 一般廃棄物焼却灰については、今後の新規発生分を1割程度見込んだ。

※2 8,000Bq/kgを超える農林業系副産物の保管量。

※3 農林業系副産物の必要処分量は、8,000Bq/kgを超える農林業系副産物を処分場に併設する仮設焼却炉で焼却した時に発生する焼却灰(残渣率10%(腐葉土は20%))と8,000Bq/kg以下の(保管量約5万5千トン)の農林業系副産物を既存の焼却施設で焼却した時に8,000Bq/kgを超える焼却灰として発生する量(原則として10%と推計(比較的低濃度のものについては3%))の合計。(参考1)

※4 その他として、一般廃棄物焼却灰、農林業系副産物焼却灰、下水汚泥、浄水発生土の計画最終処分量の合計の10%を見込んだ。

※5 仮設焼却炉(焼却能力40トン/日)の解体材として1,800トンと設定した。(参考2)

※ 四捨五入の関係で数字の末尾が一致しない場合がある。

**処分場の埋立容量 15,500㎡ (250㎡×62区画)→ 過大施設ではないか**  
**灰・スラグ、発生土の比重は、2~3 トンではなく立方メートルで。**

# 排ガス対策に万全を期した焼却施設

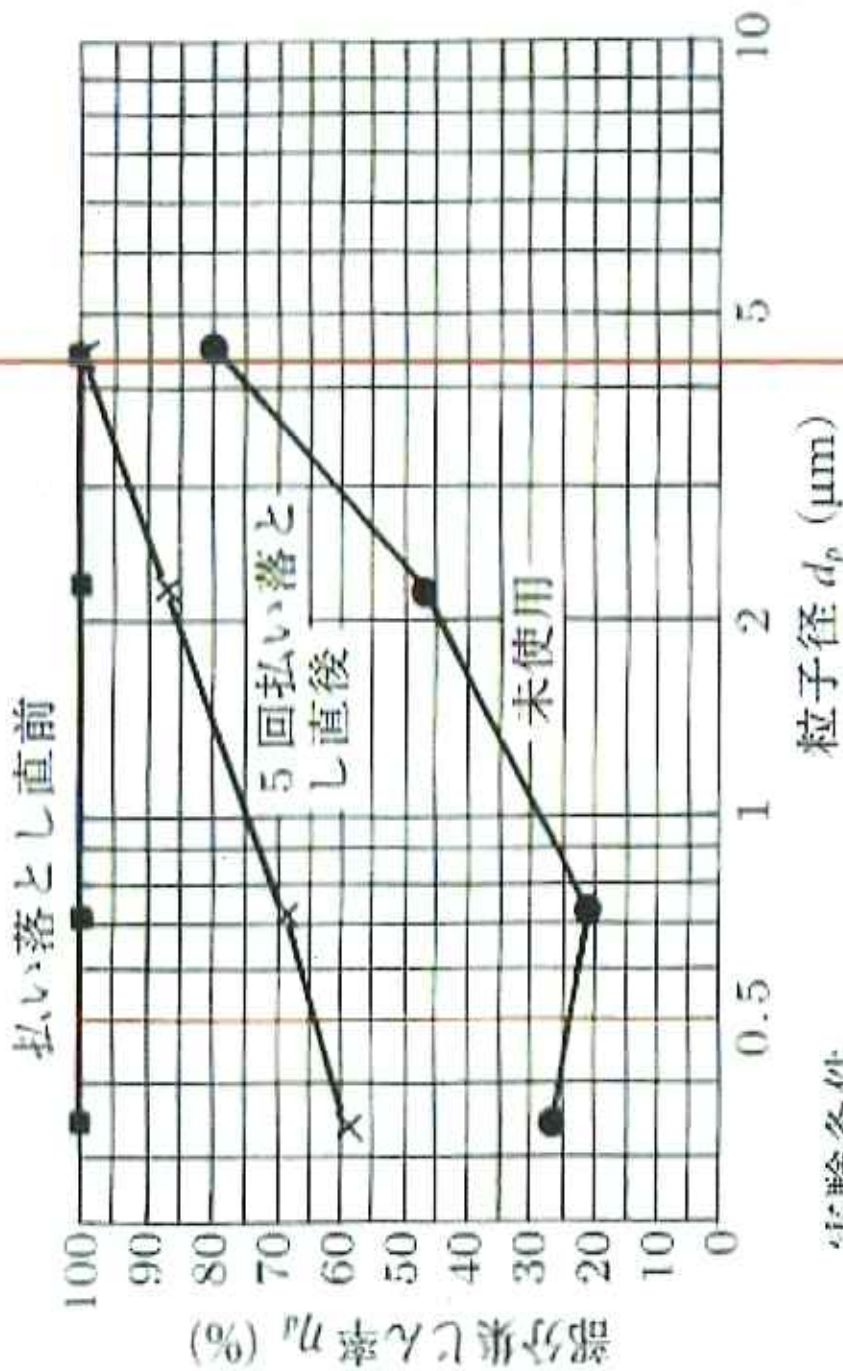
- 高性能の排ガス処理装置で放射性物質の放出を防ぎます。
- 焼却施設は約1年間稼働し、その後解体し埋め立てます。

図：「指定廃棄物の安全な処理について 5つのポイント」  
平成26年11月11日 環境省



たった1年で、十数億円の焼却炉を廃棄→既存の施設で処理したら





実験条件  
ろ布：ポリエステル毛焼きフェルト，繊維径 14  $\mu\text{m}$   
目付 600  $\text{g}/\text{m}^2$ ，ろ過面積 30  $\text{cm} \times 30 \text{cm}$   
使用粒子：JIS 11 種 関東ローム（平均粒子径 1.5  $\mu\text{m}$ ）  
ろ過速度：3  $\text{cm}/\text{s}$   
払い落とし時圧力損失：2  $\text{kPa}$   
払い落とし気流圧力：100  $\text{kPa}$   
払い落とし気流噴射時間：200  $\text{ms}$

出典：「公害の防止の技術と法規」

集塵はいじんの粘性  
を利用。

新品のろ布、ふるい落  
し後は集塵率が低下る。

5 $\mu\text{m}$ 以下の粒子の集  
塵率は著しく低下する。

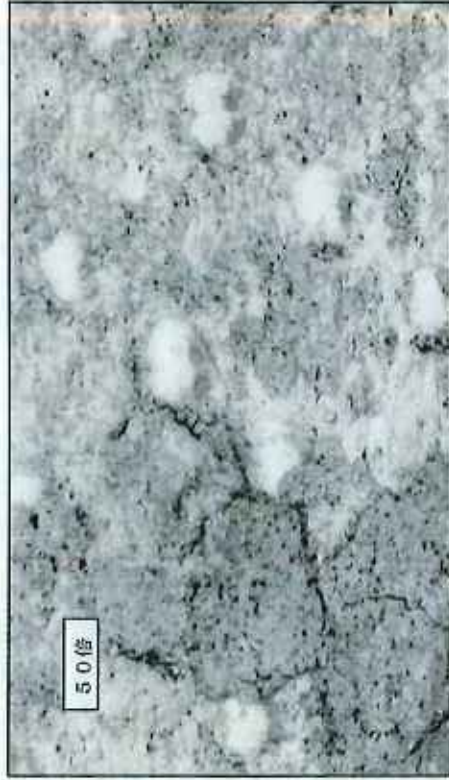
繊維の材質によつても、  
捕捉率に違いがある。

図 4.2.4-2 バグフィルターの部分集じん率の例

＜拡大写真 別紙3＞

No. 5 3号炉 P6-5

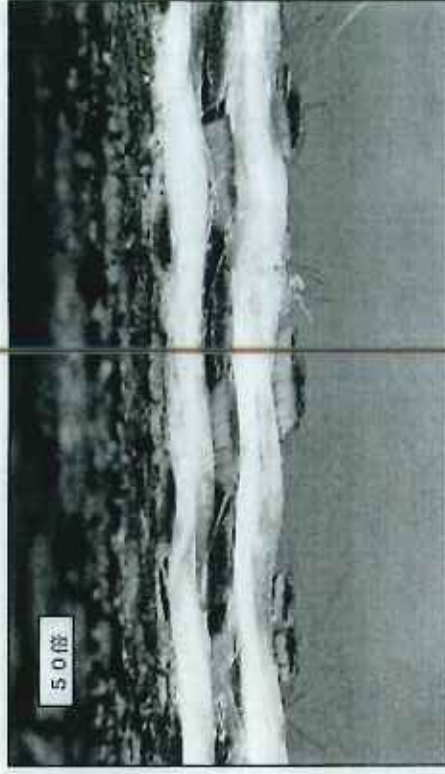
クリーン前 下部 表



＜拡大写真 別紙4＞

No. 7 3号炉 P6-5

クリーン前 下部 タテ断面



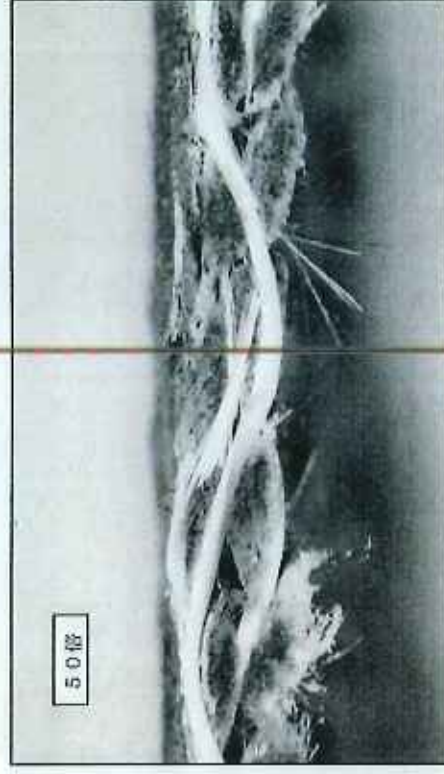
水分の混入煤塵の固結→目詰まり

現象:通気性が半減。爆圧の可能性。

対策:クリーニング(吸引)が困難。ろ布の交換等。

No. 6 3号炉 P6-5

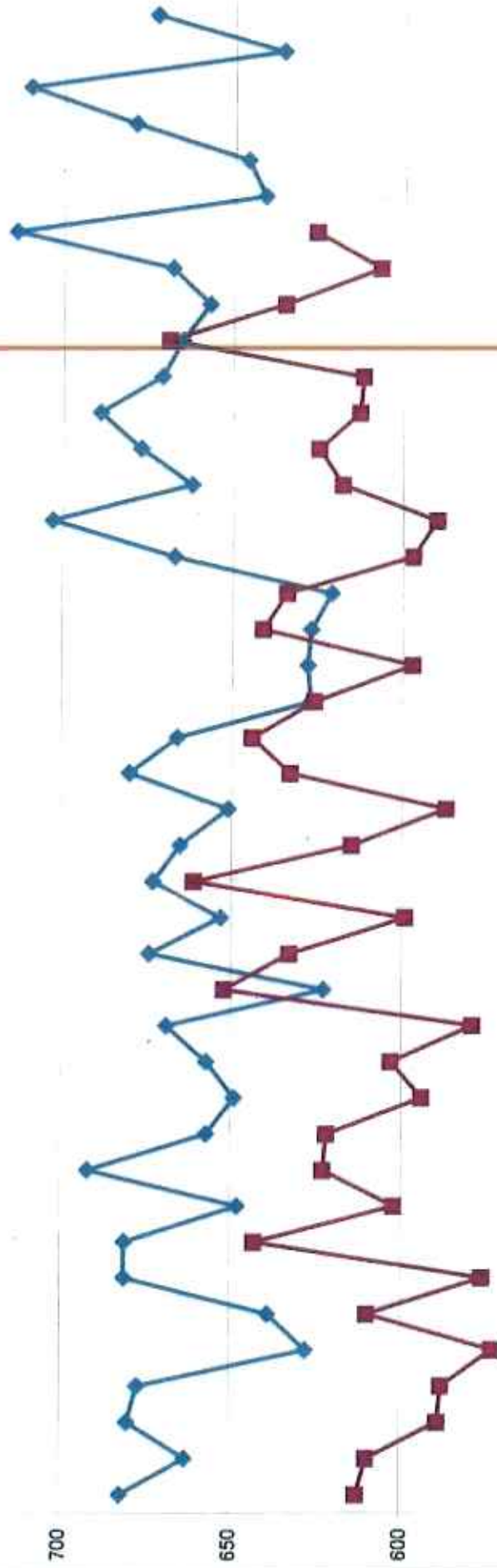
クリーン前 下部 裏





震災がれき試験焼却時と直後の空間放射線量 三条市

750



2012.10.12 - 18 大田・阿部ほか たんぽぽ・地表1m

500

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42